

中央史学会考古学部会

日時：2019/1/12（土曜） 13:00～15:00（小澤・五十嵐の順）

場所：中央大多摩キャンパス 4354 考古整理室

講演者1：五十嵐 彰（東京都埋蔵文化財センター研究員）

演題：「接合という考古事象から考える新たな世界」

\*概要

接合とは何でしょうか？ まず土器接合と石器接合の違いを弁えなくてはなりません。石器接合の特性はリダクションを遡ることです。最終的に辿り着いた固定した形状ではなく、そこに至る途中経過としての変容する形状を垣間見ることができます。製作痕跡（接合）と使用痕跡（付着物や線条痕）の相互関係から〈場〉と〈もの〉について考えます。

講演者2：小澤政彦（千葉県教育庁）

演題：「千葉県における縄文後期住居形態－柄鏡形住居を中心に－」

\*大学院「日本考古学演習」を兼ねて行う予定です。

人文研公開研究会

日時：2019/2/23（土曜） 13:00～15:00

場所：中央大多摩キャンパス 4354 考古整理室

講演者1：大網信良（東京都埋蔵文化財センター研究員）

題目：縄文土器の製作システムと型式－中期後葉・連弧文土器を中心に－

概要：本発表では、縄文時代中期後葉の関東地方西部に分布する連弧文土器を主な題材とし、①関東地方から東海地方の土器群の弧線文様に着目した組成分析、②関東地方西部の中期後葉土器群の法量分析、③東京都多摩ニュータウン遺跡群の土器圧痕分析、という三つの分析を通して、土器型式（様式）が成り立つ要因とその背後にある土器製作システムを考察する。